

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

経営者への活きた言葉

税理士法人 優和

TEL 03-3455-6666
FAX 03-3455-7777

経営者への活きた言葉

今後10年で私たちの生活、ビジネス、産業が大きく変革する

ピーター・ディアマニス（「2030年すべが加速する世界に備えよ」著者）

1. この本で読者に最も伝えたかったことは。

「今後10年で私たちの生活のあらゆる側面、あらゆるビジネス、あらゆる産業が大きく変革する。コンピュータ、センサー、ネットワーク、AI（人工知能）、ロボット、3Dプリンター、バイオテクノロジー、ブロックチェーンなど各種でテクノロジーの進展が、私たちのビジネスや生活をどのように変えるのかを知っておくことが重要だ」。

2. 劇的な変革を迎える中、理想的な未来のリーダー像は。

「変化に直面したときは余裕を持って機敏に対応しなければならない。それには、将来に関して適応力に富む明確なビジョンを持ち、データを根拠に決断を下し、つねに実験を怠らないリーダーと企業が最も大きな成功を収められる」。

3. 2030年の日本は。

「ヒトと機械のコラボレーションの分野でリードしていけないのではないだろうか。日本は人口減少で労働力も減っているため、自動化やロボットに対するニーズはますます大きくなる。この変革を率先して押し進め、夢やムーンショットを実現できることを、日本は世界に示してほしい」。

（参考：「週刊東洋経済」2021年5月1・8日号）

人事・労務について

新常態ワークスタイル(カルビー)

1. 東京駅に隣接する高層ビルの22・23階。約500人が所属するカルビーの本社は今、出社率20～25%程度で推移している。カルビーが難なく、テレワークを実践できたのは、前提となる社内制度が整っていたからだ。2000年代初頭から経費精算の社内の稟議決裁を電子化し、会議資料のペーパーレス化を推し進めた。10年の現本社ビルへの移転を機に、フリーアドレスを全国に順次拡大。14年に在宅勤務制度を始め、17年には利用日数や勤務場所の制限をなくした「モバイルワーク制度」を導入した。
2. 「リモート工場見学」は20年11月に始めた。役員などによる社内の工場視察もオンラインに切り替えた。人事部門では半年ほど前に「カルビーラーニングカフェ」をスタートした。社員なら誰でも参加できるオンラインの「ゆるい勉強会」で、マインドフルネス、リーダーシップ、幸福学など社内外の専門家を講師に定期的開催している。

（参考：「日経ビジネス」：2021年5月3日号）

ワンポイント経営アドバイス

明暗を分けた資生堂と花王

1. 新型コロナウイルスの感染拡大は人々の消費行動を一変させ、外出自粛や在宅勤務の広がり化粧品の需要は大きく減った。化粧品業界の王者、資生堂は2020年12月期決算で売上が前年比18.6%減の9209億円、最終利益は117億円の赤字に転落した。
2. 一方で、業界2位の花王は20年12月期の売上高は同8.0%減の1兆3820億円だったものの、最終損益は8.3%減の1345億円で黒字を確保した。両社共に化粧品の売り上げは落としたものの、花王は手指の消毒液や洗剤が好調でカバーし、資生堂との明暗を分けた。

（参考：「週刊ダイヤモンド」2021年5月15日号）

古典に学ぶ

悪徳重役により秘密的行動が広まる

（解説）現代における事業界の傾向を見るに、ままた悪徳重役なる者が出でて、多数株主より依頼された資産を、あたかも自己専有のもののごとく心得、これをわがままに運用して私利を営まんとする者がある。それがため、会社の一部は公私の区別なく秘密的行動が盛んに行われるようになって行く。

（参考：渋沢栄一「論語と算盤」：国書刊行会）